

せんだいメディアテーク年報 (2017年度)

はじめに

震災から7年目となる2017年は、これまでの取り組みを総括しつつ、地域社会とともにある文化的な活動を展開していく年となりました。

2011年度から始まった震災アーカイブ「3がつ11にちをわすれないためにセンター」は、開設から現在に至るまでの活動をまとめた書籍『コミュニティ・アーカイブをつくろう！～せんだいメディアテーク「3がつ11にちをわすれないためにセンター」奮闘記』を出版し、また国内外からのゲストを招いた記念フォーラムとして、「コミュニティ・アーカイブってなに？」を開催しました。

地域の歴史や社会的課題を調査し、展示などを通じてあらわす「調査と表明」事業は、2年目をむかえ、展覧会「コンニチハ技術トシテノ美術」を開催しました。震災後の東北に関心を寄せる青野文昭、飯山由貴、井上亜美、高嶺格、門馬美喜の5人の美術家が、震災で気づかされたテクノロジーへの依存を見つめなおし、自分の身体と共にある「生きる技法」としての芸術を表現しました。また、展覧会の企画過程や展示作品などを掲載した書籍も出版しました。スタジオを拠点とした協働プロジェクト「メディアスタディーズ」では、「てつがくカフェ」や「どこコレ？ーおしえてください昭和の仙台」、「民話 声の図書室」などすでに定着した活動に加え、近年始まった新しい取り組みのなかにも着実な成果が認められるようになりました。また、前年度の展覧会をまとめた書籍『まっぶたつの風景 畠山直哉』を出版しました。

同じく2年目となる「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」では、復興と向き合うための長期プロジェクト「川俣正 / 仙台インプログレス」の第1弾として、貞山運河での「みんなの橋プロジェクト」が始動しました。また、アーティスト藤浩志によるごみの資源化プロジェクト「ワケあり雑がみ部」の活動を実施、仙台市環境局主催の啓発イベント「せんだい資源ナーレ」で部員となった市民の活動成果を広く発表することができました。そのほか、東北の文化・営みについてアーティストの視点で調査し表現する「東北リサーチとアートセンター (TRAC)」を開設、パートナーとなる3団体との運営を始めました。

市域のミュージアムが連携する「仙台・宮城ミュージアムアライアンス (SMMA)」では、日英バイリンガル版ガイドブックの出版を行い、より幅広い層にミュージアムの魅力を伝えることができました。

この年報が、生涯学習の振興及び文化活動の支援に関心を寄せるみなさまと、これからの当館の進むべき方向性をともに考える一助となれば幸いです。

目次

1. 施設の概要

- 1-1. 施設
- 1-2. 沿革
- 1-3. 組織
- 1-4. 収支
- 1-5. 施設使用実績

2. 企画事業

- 2-1. 「調査と表明」事業
- 2-2. 発信・活用推進事業
- 2-3. アート事業「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」
- 2-4. その他事業（自主財源事業ほか）

3. 受託事業

3がつ11にちをわすれないためにセンター

4. 情報サービス事業

- 4-1. 映像音響ライブラリー
- 4-2. 教材ライブラリー
- 4-3. 視聴覚障害者情報ライブラリー（バリアフリー・ライブラリー）
- 4-4. 地域映像ライブラリー
- 4-5. デジタルアーカイブ事業
- 4-6. 活動支援事業

5. 配布・刊行物等

- 5-1. 書籍や報告書等の印刷物
- 5-2. DVDメディア等の映像音響資料
- 5-3. 紙やインターネットを通じた定期発行等
- 5-4. その他常備している印刷物

1. 施設の概要

1. 施設の概要 > 1-1. 施設、1-2. 沿革、1-3. 組織

1-1. 施設

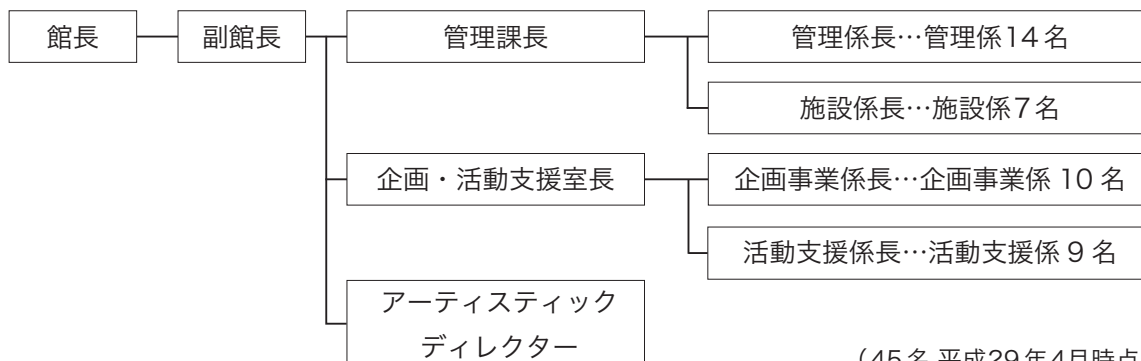
- 所在地 仙台市青葉区春日町2番1号
- 開館時間 9:00—22:00（階により異なる）
- 敷地面積 3,949㎡
- 構造 鉄筋造一部鉄筋コンクリート造地下2階地上7階建
- 延床面積 21,682㎡
- 主な施設内容
 - 地下2階 書庫、収蔵庫、機械室
 - 地下1階 駐車場、書庫
 - 1階プラザ（定禅寺通に開かれた屋内型公開空地、オープンスクエア、カフェ、ショップ）
 - 2階ライブラリー（映像音響資料、児童書、新着新聞雑誌等の閲覧）
 - 3・4階ライブラリー（仙台市民図書館）
 - 5階ギャラリー3300（固定壁面を中心とする天井高3,300mmの展示空間）
 - 6階ギャラリー4200（可動壁面で自由に構成できる天井高4,200mmの展示空間）
 - 7階スタジオ（施設貸出・相談窓口、スタジオシアター、各種スタジオ）

1-2. 沿革

- 平成元年（1989年） 宮城県芸術協会が大型ギャラリーを中心とした美術館建設の要望書提出。
- 平成4年（1992年） 定禅寺通に図書館を併設した市民ギャラリーを建設する方針が定まる。
- 平成6年（1994年） 市民ギャラリー、図書館、映像メディアセンター、視聴覚障害者のための情報提供施設の機能を併せ持つ芸術文化施設とすることが決まる。
- 平成7年（1995年） 設計競技により、伊東豊雄建築設計事務所が選ばれる。
- 平成9年（1997年） 12月着工。平成12年（2000年）8月竣工。
- 平成13年（2001年） 1月26日開館。仙台ひと・まち交流財団が管理（図書館は仙台市直営）。グッドデザイン大賞受賞。
- 平成16年（2004年） 仙台ひと・まち交流財団を指定管理者として指定。
- 平成19年（2007年） 業務移管により、仙台市市民文化事業団を指定管理者に指定。
- 平成20年（2008年） 館内フロアレイアウトを一部変更。
- 平成23年（2011年） 地域創造大賞受賞。東日本大震災により休館。5月3日から一部再開し、翌年1月27日に全館再開。

1-3. 組織

所管 仙台市教育委員会生涯学習部生涯学習課
 指定管理者 公益財団法人仙台市市民文化事業団（図書館は仙台市直営）



（45名 平成29年4月時点）

1-4. 収支

(1) 収入の部

指定管理料	569,873 千円
事業収入（企画事業、受託事業を含む）	75,921 千円
《内訳》	
・補助金	40,519 千円
・各種助成金	11,000 千円
・入場料等	841 千円
・受託事業収入	13,686 千円
・仙台市市民文化事業団自主財源	6,294 千円
・負担金収入	3,581 千円

(2) 支出の部

管理運営費（施設の維持管理、情報サービス事業を含む）	569,873 千円
事業費（企画事業、受託事業を含む）	75,921 千円

1-5. 施設使用実績

(1) 施設使用実績

施設	貸出単位	利用日数	日数ベース利用率	利用者数
5 階ギャラリー	週	43*	91.5%	124,072
6 階ギャラリー	週	41*	87.2%	154,286
オープンスクエア	日	255	76.8%	79,678
スタジオシアター	1日3区分	210	62.7%	21,776
2 階会議室	1日3区分	296	88.1%	4,457
7 階会議室	1日3区分	332	97.9%	10,178
プラザ控室 a	1日3区分	192	56.6%	965
プラザ控室 b	1日3区分	234	69.0%	2,305
託児室	1日3区分	20	5.9%	76

使用料等徴収額 74,212 千円

*5/6 階ギャラリーは週数ベース

(2) 視察等の対応

視察 105 件
報道（新聞・テレビ・書籍・雑誌）：133 件

(3) その他

博物館実習の受け入れ：6 名
（東北生活文化大学、宮城学院女子大学、東北芸術工科大学、武蔵野美術大学）

2. 企画事業

メディアを活用した生涯学習活動および文化活動にかかる、展示・上映・ワークショップ等。

2-1. 「調査と表明」事業

国内外で活躍するアーティストや市民活動団体が協働し、地域の歴史や社会的課題を調査し、その成果を展示を通じて発表することで再び地域に還元するとともに、「考えるテーブル」など人々に開かれた場をしつらえ、主体的な社会参加を文化面から活性化する事業。

《展覧会》

2. 企画事業 > 2-1. 「調査と表明」事業 > 《展覧会》

コンニチハ技術トシテノ美術

会期：2017年11月3日-12月24日
 会場：6f ギャラリー 4200
 入場・参加者数：5,146名
 入場料等：一般 500円（大学生・専門学校生含む）、高校生以下無料（豊齢カード、障害者手帳をお持ちの方は半額）
 共催等：NHK 仙台放送局、TBC 東北放送、仙台放送、ミヤギテレビ、KHB 東日本放送、河北新報社、朝日新聞仙台総局、読売新聞東北総局、毎日新聞仙台支局、産経新聞社東北総局、日本経済新聞社仙台支局、仙台リビング新聞社、せんだいタウン情報 S-style、エフエム仙台、ラジオ 3（後援）
 東山アーティスト・プレースメント・サービス（HAPS）、てつがくカフェ@せんだい（協力）
 一般財団法人地域創造（助成）

もとは同じ言葉でありながら、近代化の過程で意味が分かれた「技術」と「芸術」の関係について、震災後の東北に関心を寄せる5人の美術家がいま見つめるべき課題として問いかけました。展示作家：青野文昭、飯山由貴、井上亜美、高嶺格、門馬美喜、共同企画者：長内綾子、細谷修平



ギャラリーツアー

（「コンニチハ技術トシテノ美術」関連企画）

会期：2017年11月3日、11月11日、12月9日
 会場：6f ギャラリー 4200
 入場・参加者数：35名
 入場料等：無料（要展覧会チケット）
 共催等：（展覧会に同じ）

担当学芸員や展示作家の解説とともに展覧会を見るツアーを3回にわたり実施しました。



トークイベント「コンニチの技法」comos-tv 連携企画

（「コンニチハ技術トシテノ美術」関連企画）

会期：2017年11月23日
 会場：6f ギャラリー 4200 ホワイトエ
 入場・参加者数：23名
 入場料等：無料（要展覧会チケット）
 共催等：（展覧会に同じ）

「comos-tv」と連携し、美術評論家の栗田大輔氏、美術家・映画監督の藤井光氏、本展の企画者、出展作家が、現在を生きるための探求としてのアートとはどのようなものか、せんだいメディアテークの活動を基軸として、ともに考えました。



2. 企画事業 > 2-1. 「調査と表明」事業 > 《展覧会》

考えるテーブル てつがくカフェ 「いま、技術を問い直す」

（「コンニチハ技術トシテノ美術」関連企画）

会期：2017年11月25日
会場：6f ギャラリー 4200 ホワイエ
入場・参加者数：36名
入場料等：無料
共催等：（展覧会に同じ）

科学技術の進展（手に負えなさ）と、それになんとか臨み続けようとする私たち人間の技と術を切り口としながら、参加者とともに技術について問い直しました。



ライブイベント

（「コンニチハ技術トシテノ美術」関連企画）

会期：2017年12月16日
会場：6f ギャラリー 4200 ホワイエ
入場・参加者数：62名
入場料等：無料（要展覧会チケット）
共催等：（展覧会に同じ）

澁谷浩次氏が率いる在仙のバンド yumbo のライブを行いました。



《アーティストリサーチ》

2. 企画事業 > 2-1. 「調査と表明」事業 > 《アーティストリサーチ》、
《スタジオ情報発信_考えるテーブル》

study / ヒスロム

会期：通年
会場：—
入場・参加者数：—
入場料等：—
共催等：一般財団法人地域創造（助成）

《イベント》
・「study / ヒスロム」活動報告展
（2018年2月18日-3月31日 / 7f
スタジオ b）

身体を用いて土地の文化を体験的に理解し、映像や写真など多様な形態で表現している作家集団 hyslom（ヒスロム）が、2018年に予定している展覧会にむけたリサーチを行いました。



《スタジオ情報発信_考えるテーブル》

考えるテーブル てつがくカフェ

会期：2017年5月4日、6月18日、8月6日、11月25日、2018年1月20日、3月10日（全6回）
会場：7fスタジオ a、6fギャラリー 4200 ホワイト、1f オープンスクエア
入場・参加者数：243名（47名、41名、35名、36名、38名、46名）
入場料等：無料
共催等：てつがくカフェ @ せんだい（共催）、一般財団法人地域創造（助成）

2011年度から継続し、7年目を迎えた事業。震災にまつわるテーマを掲げ、それをもとに参加者同士で対話を行いました。

《テーマ》

- ・「心の復興」を問い直す（5月4日 / 47名）
- ・いま、「選ぶこと」の意味を問い直す（6月18日 / 41名）
- ・放射能と暮らし（8月6日 / 35名）
- ・いま、技術を問い直す（再掲）
- ・映像記録『名を呼ぶ日』から考える（1月20日 / 38名）
- ・（関連企画）映像記録『名を呼ぶ日』から考える 関連展示「読むこと、聞くこと、囲むこと：阪神・淡路大震災 22年目の試みの記録」（1月13日-28日 / 一名）
- ・シネマてつがくカフェ 『猿とモルター』映像記録から“継承”を考える（3月10日 / 46名）



2. 企画事業 > 2-1. 「調査と表明」事業 > 《スタジオ情報発信_考えるテーブル》

考えるテーブル どこコレ？

（「どこコレ？—おしえてください昭和のセンダイー」関連企画）

会期：2017年6月17日
 会場：7f スタジオ a
 入場・参加者数：22名
 入場料等：無料
 共催等：NPO 法人 20世紀アーカイブ
 仙台（共催）、一般財団法人地域創造（助成）

詳細がわからない昭和時代の仙台の写真を展示し、来館者の記憶を頼りに情報を集め、場所や年代を調べる「どこコレ？」にあわせ、写真を見ながら参加者とともに話し合いました。



考えるテーブル 民話ゆうわ座

（「民話 声の図書室」関連企画）

会期：2018年2月4日
 会場 1f オープンスクエア
 入場・参加者数：231名
 入場料等：無料
 共催等：みやぎ民話の会「民話 声の図書室」プロジェクトチーム（共催）、一般財団法人地域創造（助成）

「民話のなかのキツネたち」をテーマに、日本で語られてきた無数のキツネ話の中から10話をDVD映像や「みやぎ民話の会 語りグループ」の語りによって紹介し、参加者とともに考えました。



《スタジオ情報発信_ラウンジ交流展示》

2. 企画事業 > 2-1. 「調査と表明」事業
> 《スタジオ情報発信_ラウンジ交流展示》

ラウンジ交流展示 どこコレ？—おしえてください昭和のセンダイ—

会期：2017年4月29日-5月7日（前期）、5月9日-6月18日（後期）
会場：1f オープンスクエア（前期）、7f ラウンジ（後期）
入場・参加者数：—
入場料等：無料
共催等：NPO 法人 20世紀アーカイブ 仙台（共催）、一般財団法人地域創造（助成）

2012年度から続いているプロジェクト。仙台のどこかではあるけれども詳細がわからない古い写真を展示し、来場者の記憶や証言をもとに、それら写真の場所や年代を明らかにしました。今回は特別企画として「さようなら丸光」展も併催しました。



《会期中のイベント》

- ・ワークショップ「あるく どこコレ？」
(2017年6月17日 / 7f スタジオ a および館外 / 参加者数：10名)
- ・トーク「昭和の仙台を語る会」
(2017年6月18日 / 7f スタジオ a / 参加者数：25名)

ラウンジ交流展示 細倉を記録した寺崎英子のまなざし展

会期：2017年10月7日-12月26日
会場：7f ラウンジ
入場・参加者数：—
入場料等：無料
共催等：寺崎英子写真集刊行委員会（共催）、仙台写真月間2017（協力）、一般財団法人地域創造（助成）

宮城県北西部の町、鶯沢にあった細倉鉱山が閉山されることになってから、カメラを手にし、そこに暮らす人々の行方を撮影してきた寺崎英子。2016年5月、75歳で亡くなった寺崎英子から託された、約1万3千カットのネガをアーカイブし、写真集刊行を目指すプロジェクト「細倉を記録した寺崎英子の写真アーカイブ」が、その中途報告として、モノクロネガから約300点の写真を、撮影ノートなどの資料とともに展示しました。



《会期中のイベント》

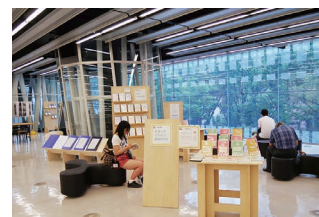
- ・座談会「ひとびとの細倉・寺崎英子と私」
(2017年12月19日 / 7f ラウンジ / 参加者数：34名)

《地域文化アーカイブ》

2. 企画事業 > 2-2. 発信・活用推進事業 > 《地域文化アーカイブ》

民話 声の図書室

2012年度から引き続き、民話 声の図書室プロジェクトチームとの協働により、みやぎ民話の会が45年にわたって記録してきた、宮城県を中心とする民話語りの映像・音声の資料化、また、あらたな記録活動を進め、考えるテーブルでの「民話ゆうわ座」の開催、「とぷらす・ウィーク」および「星空と路 ー資料室ー」での資料展示を行ったほか、DVD6本を制作しました。



どこコレ？ーおしえてください昭和のセンダイー

2012年度から引き続き、NPO 法人20世紀アーカイブ仙台と協働し、詳細が不明だった仙台の古い写真のアーカイブに取り組みました。その実践として、考えるテーブルやラウンジ交流展示、「あるくどこコレ？」などを行いました。



くろい音楽室

2012年度から引き続き、宮城アナログ文化協会との協働により、主に音楽にまつわるアナログ文化（レコードやテープなど）の記録と、音楽を通じた対話を行ってきました。今年度はその実践として、仙台の街中に点在する音楽スポットを巡る「まちの音楽室」（2017年10月7日／参加者数：15名／助成：一般財団法人地域創造）を行いました。



2-2. 発信・活用推進事業

各種団体との連携を通じて地域における役割を担うとともに、市民図書館をふくめたメディアテークの総合的な情報アクセス機能の活性化を図る事業。

《バリアフリー・デザイン》

2. 企画事業 > 2-2. 発信・活用推進事業 > 《バリアフリー・デザイン》

バリアフリー上映「スープ・オペラ」

会期：2017年5月28日（2回上映）
会場：7f スタジオシアター
入場・参加者数：192名
入場料等：無料
共催等：—

ボランティアの制作により、目の不自由な方が楽しめる音声解説、耳の不自由な方が楽しめる日本語字幕、また、託児サービスを併せた上映を行いました。

《上映作品》

「スープ・オペラ」

（監督：滝本智行／2010年）



バリアフリー上映「幕末太陽傳」

会期：2017年11月26日（2回上映）
会場：7f スタジオシアター
入場・参加者数：79名
入場料等：無料
共催等：—

ボランティアの制作により、目の不自由な方が楽しめる音声解説、耳の不自由な方が楽しめる日本語字幕、また、託児サービスを併せた上映を行いました。

《上映作品》

「幕末太陽傳」

（監督：川島雄三／1957年）



音声解説制作講座 事前説明会

会期：2017年5月12日、16日、24日
会場：7f スタジオb
入場・参加者数：7名
入場料等：無料
共催等：—

目の不自由な方が映画を楽しめる音声解説をつけた上映をおこなうための講座開催にあたり、事前説明会を行いました。

音声解説制作講座

会期：2017年6月3日、13日、20日
会場：2f 会議室
入場・参加者数：17名
入場料等：無料
共催等：—

音声解説制作者を対象に、スキルアップ講座を実施しました。

《館長発信事業》

2. 企画事業 > 2-2. 発信・活用推進事業 > 《館長発信事業》

鷲田清一とともに考える 7

会期：2017年8月18日
 会場：1f オープンスクエア
 入場・参加者数：324名
 入場料等：無料
 共催等：一般財団法人地域創造（助成）

2014年度から続く、当館館長で哲学者の鷲田清一が、各分野のプロフェッショナルと語り合うシリーズ。今回は文筆家・思想家の平川克美氏をゲストに迎え、現在の日本における適正な「サイズ」について考えました。



鷲田清一とともに考える 8

会期：2017年10月21日
 会場：1f オープンスクエア
 入場・参加者数：234名
 入場料等：無料
 共催等：一般財団法人地域創造（助成）

2014年度から続く、当館館長で哲学者の鷲田清一が、各分野のプロフェッショナルと語り合うシリーズ。今回は経済学者の玄田有史氏をゲストに迎え、「持ち場」をキーワードに対話を重ねました。



《地域文化連携》

2. 企画事業 > 2-2. 発信・活用推進事業 > 《地域文化連携》

ショートピース！仙台短篇映画祭 2017

会期：2017年9月16日-18日
 会場：7f スタジオシアター、1f オープンスクエア
 入場・参加者数：1,360名
 入場料等：前売券＝全日フリーパス4,000円、3プログラム回数券2,500円 当日券＝1プログラム券1,000円（高校生以下、豊齢・障害者手帳等で800円）、ほか
 共催等：仙台短篇映画祭実行委員会（共催）

東日本大震災関連作品、「新しい才能に出会う」と題した公募作品、また、バリアフリー上映などを、多彩なゲストを招きつつ行いました。

《上映作品》

「人生フルーツ」（監督：伏原健之／2016年）、「アナへの2通の手紙」（監督：ホセ・ルイス・ゲリン／2010年）、「イノセント15」（監督：博和甲斐／2016年）、「黄色い花 一束二時頃」（監督：越川道夫／2017年）ほか。

《ゲスト》

伏原健之、甲斐博和、越川道夫、澁谷浩次、緑茶麻悠、野口航、小辻陽平、木村智哉、浅井浩雄、水澤紳吾、守屋文雄ほか。



せんだいデザインリーグ 2018 卒業設計日本一決定戦

会期：2018年3月4日-11日
 会場：1f オープンスクエア、5f ギャラリー 3300、6f ギャラリー 4200、7f スタジオシアター、7f スタジオ a、スタジオ b
 入場・参加者数：4,582名
 入場料等：無料
 共催等：仙台建築都市学生会議（共催）

16回目を迎える、建築を学ぶ学生たちの卒業設計が一堂に会し、日本一を決めるイベント。

《審査員》

青木淳（審査員長）、赤松佳珠子、磯達雄、五十嵐淳、門脇耕三、辻琢磨、中田千彦

《入賞作》

日本一：渡辺顕人（工学院大学）「architecture to life」、日本二：高橋万里江（東京都市大学）「建物語－物語の空間化－」、日本三：谷繁玲央（東京大学）「住宅構法の詩学－ The poetics of Construction for industrialized houses made in 1970's－」



定禅寺通りイベント共催等事業等

ストリートに開かれた場として、定禅寺通りを中心に開催されているイベントと連携・協力しました。

a) 仙台・青葉まつり協賛会との連携

今回で33回目となる「仙台・青葉まつり」にあわせ、青葉まつりの歴史紹介や、すずめ踊りの参加祭連の紹介、演舞披露を行いました。（2017年5月20日-21日 / 1f オープンスクエア / 来場者数：1,274名）



b) とっておきの音楽祭実行委員会 SENDAI との連携

「みんなちがって、みんないい」を合言葉に、障がいのある人もない人も一緒に音楽を楽しみ、「心のバリアフリー」を目指す「とっておきの音楽祭」にあわせ、1f オープンスクエアを会場としたイベントを行いました。

- ・スペシャルライブ
（2017年4月16日 / 1f オープンスクエア / 来場者数：417名）
- ・本祭開催時の会場
（2017年6月4日 / 1f オープンスクエア / 来場者数：1,126名）



c) 定禅寺ストリートジャズフェスティバル実行委員会との連携

今回で27回目を迎える「定禅寺ストリートジャズフェスティバル in 仙台」にあわせ、夏の交流ライブほか、本祭時にはメディアテーク・ステージを開設しました。

- ・交流ライブ
（2017年7月16日-17日 / 1f オープンスクエア / 来場者数：1,139名）
- ・本祭開催時の会場
（2017年9月8日-10日 / 1f オープンスクエア / 来場者数：3,420名）

d) その他

ゴールデンウィークや SENDAI 光のページェントの開催時期にあわせ、1f オープンスクエアで人々が自由に集い、くつろいだ時間を過ごすことのできる広場を提供しました。

- ・2017年4月28日-5月7日 / 1f オープンスクエア
- ・2017年12月18日-28日 / 1f オープンスクエア

《施設活用推進》

2. 企画事業 > 2-2. 発信・活用推進事業 > 《施設活用推進》

図+（とぶらす）・ウィーク

会期：2017年8月6日～10日
 会場：1f オープンスクエア、2f 映像音響ライブラリー、図書館ほか
 入場・参加者数：2,018名
 入場料等：無料
 共催等：仙台市民図書館（共催）

市民図書館が所蔵する江戸期からの和漢書の展示のほか、たくさんのボランティアグループによる恒例の連続おはなし会や活版印刷の体験、インターネット上の百科事典「ウィキペディア」を図書館の資料を使って編集するワークショップなどを行いました。



スクエア図書館

会期：2017年4月18日～21日
 会場：1f オープンスクエア
 入場・参加者数：1,809名
 入場料等：無料
 共催等：仙台市民図書館（共催）

オープンスクエアの遊休日を利用して、図書館所蔵の本から司書おすすめの本を手に取りながらくつろげる空間を作りました。今年度は「仙台と出会う。」をテーマに実施。



2-3. アート事業「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」

優れた現代アートの持つ力を取り込みながら、市民とともに地域が抱える課題に向き合う事業。

《地域展開事業》

2. 企画事業 > 2-3. アート事業「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」 > 《地域展開事業》

川俣正／仙台インプログレス

会期：通年

会場：仙台市沿岸部、せんだいメディアテーク

入場・参加者数：—

入場料等：—

共催等：新浜町内会、岡田児童館、東北生活文化大学、貞山運河研究所（協力）、損保ジャパン日本興亜「SOMPO アート・ファンド」（企業メセナ協議会 2021 Arts Fund）（助成）

仙台市沿岸部の課題に長期的に向き合うプロジェクト。今年度は「みんなの橋プロジェクト」として、宮城野区沿岸部の小学生を対象とした模型ワークショップや住民との交流事業（2017年8月4日～10日／参加者数：33名）の実施、貞山運河の測量作業など、「みんなの橋」制作に向けた活動を行いました。また、「アートノード・ミーティング03」（2017年8月11日／会場：1f オープンスクエア／参加者数：370名）や「みんなの橋プロジェクト活動報告展」（2018年1月12日～2月18日／会場：7f ラウンジ）を実施し、活動を広く紹介しました。



2. 企画事業 > 2-3. アート事業「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」 > 《地域展開事業》

藤浩志／ワケあり雑がみ部

会期：通年
 会場：仙台中心市街地、せんだいメディアテーク
 入場・参加者数：7,977名(イベント参加)
 入場料等：無料
 共催等：仙台市環境局家庭ごみ減量課(共催)、一般社団法人日本パッケージクラフト協会(協力)

「ごみの資源化」プロジェクト。11月から1月にかけて、毎週金・土曜日に部員となった市民がメディアテークに集い、メディアテーク館内や市役所内で収集した、紙箱・包装紙・紙袋の3種類の雑がみを使って自由に作品を制作しました。

《イベント》

- ・「ワケあり雑がみ部立ち上げ式+初回活動日」
 (11月5日/参加者数：17名)
- ・「雑がみナイト！」
 (11月17日/参加者数：20名)
- ・「パッケージクラフト作家高橋和真さんと一緒につくろう」
 (12月17日/参加者数：48名)
- ・「コラージュオノマトペ」
 (1月14日/参加者数：30名)
- ・「雑がみ部成果発表展示(せんだい資源ナール内)」
 (1月26日-28日/参加者数：7,826名)



2. 企画事業 > 2-3. アート事業「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」 > 《地域展開事業》

東北リサーチとアートセンター（TRAC）

会期：通年
 会場：仙台市西公園エリア
 入場・参加者数：—
 入場料等：無料
 共催等：やわらかな土から（構成団体：一般社団法人 NOOK、NPO 法人エイブル・アート・ジャパン、3.11 オモイデアーカイブ）

仙台や東北の歴史・資源・課題などを調べ、アートや表現につなげる活動と交流のための拠点を設置し、アーティストを招聘して実施する主催事業のほか、運営を担う3団体からなるパートナー「やわらかな土から」との協働事業も行いました。



KOSUGE1-16

会期：通年
 会場：炉ばた、東北リサーチとアートセンター（TRAC）、仙台市中心市街地ほか
 入場・参加者数：—
 入場料等：無料
 共催等：—

大正時代にスズキヘキ（童謡詩人）や天江富彌（郷土研究家）が中心となって展開した仙台の児童文化運動に触発された KOSUGE1-16 が、昨年度に引き続き仙台市内でリサーチを行い、次年度に向けた企画・制作準備をしました。



《イベント》
 ・スズキヘキのカタカナシ 聴いて唄って語る会
 （2018年3月31日／参加者数：22名）

2. 企画事業 > 2-3. アート事業「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」 > 《地域展開事業》

スー・ハイドゥー (Sue Hajdu)

会期：通年
 会場：東北リサーチとアートセンター (TRAC)、本町スクエア
 入場・参加者数：—
 入場料等：無料
 共催等：一般財団法人地域創造（助成）、
 仙台北町商店街振興組合（協力）

《イベント》

- ・ **カードゲーム「仙台ナンダ札」**
 (2017年6月17日-18日 / 会場：本町スクエア / 参加者数：90名)
- ・ **「仙台ナンダ札」記録展**
 (2017年10月13日-29日 / 参加者数：122名)

昨年度実施した仙台のアイデンティティを探る「仙台商人プロジェクト」の調査の成果として、地域について考え、対話するカードゲーム作品「仙台ナンダ札」の制作とイベント、記録報告展を行いました。コーディネーター：吉川由美



鈴木一郎太

会期：通年
 会場：東北リサーチとアートセンター (TRAC)、仙台コロナワールドほか
 入場・参加者数：—
 入場料等：無料
 共催等：みやぎシルバーネット（協力）

《イベント》

- ・ **「おりあいフェスタ」**
 (2018年3月18日 / 会場：仙台コロナワールド / 参加者数：175名)

さまざまな活動における「折り合い」についてのインタビューや、みやぎシルバーネットの協力による「折り合い」川柳の募集などの調査を通じて得られた考察を、イベント「おりあいフェスタ」（出演：千葉雅俊、西川勝、出演：今和泉隆行、田澤紘子）、ウェブサイト (<https://www.ori-ai.com/>) など広く公開しました。



2. 企画事業 > 2-3. アート事業「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」 > 《地域展開事業》

伊達伸明

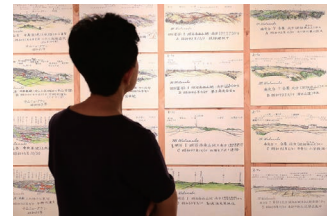
会期：通年
 会場：東北リサーチとアートセンター
 (TRAC) ほか
 入場・参加者数：—
 入場料等：—
 共催等：—

通常は研究や事業の準備段階とされる「リサーチ」の魅力に着目し、さまざまな分野の調査・研究名人を紹介する展覧会シリーズ「しらべの細道」を開催しました。また、次年度の企画準備として市内沿岸部で出土した「埋木」に関する調査を行いました。

・しらべの細道 vol.1 「萬次郎さんの仙台風景スケッチ」展

会期：2017年9月8日-24日
 会場：東北リサーチとアートセンター
 (TRAC)
 入場・参加者数：498名
 入場料等：無料
 共催等：仙台市歴史民俗資料館（協力）

宅地開発により激変する昭和の仙台風景を描き留めた、渡辺萬次郎（地質学者）の定点観測スケッチを紹介しました。



《イベント》

・「萬次郎風スケッチ大会」
 (2017年9月16日/会場：トークネットホール仙台 (仙台市民会館) /参加者数：18名)



・しらべの細道 vol.2 「図解！ どうぶつもよう」展

会期：2017年12月1日-24日
 会場：東北リサーチとアートセンター
 (TRAC)
 入場・参加者数：366名
 入場料等：無料
 共催等：NPO 法人エイブル・アート・ジャパン、NPO 法人ポラリス（協力）

動物の体表の「模様」に着目した岩沼市在住の動物イラストレーター、大友浩一郎氏の作品を紹介しました。



《イベント》

・「なぜ！なに？ どうぶつサロン」
 (2017年12月13日/参加者数：30名)



2. 企画事業 > 2-3. アート事業「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」 > 《地域展開事業》

運営パートナーとの協働事業

・立ち上がりの技術 vol.01 「語り野をゆけば」展

会期：2018年1月12日-2月12日
 会場：東北リサーチとアートセンター (TRAC)
 入場・参加者数：178名
 入場料等：無料
 共催等：やわらかな土から（共催）、仙台市戦災復興記念館、みやぎ民話の会（協力）
 企画運営：一般社団法人 NOOK、3.11 オモイデアーカイブ

戦争・震災・民話という3つの出来事・物語の語り手となった3人の現在の語りの記録と、それぞれが歩んできた道のりを展示しました。また、会期中にはトークを開催しました。



《会期中のイベント》

- ・「語り手さん大集合！」
 (2018年1月13日/参加者数：67名)
- ・「てつがくサロン “なぜ人は語る／聞くの？”」
 (1月24日/参加者数：13名)
- ・「ギャラリーツアー」
 (2月11日/参加者数：20名)

・立ち上がりの技術 vol.02 「つくる手 さぐる手 かきわけて」展

会期：2018年3月23日-4月22日
 会場：東北リサーチとアートセンター (TRAC)
 入場・参加者数：116名
 入場料等：無料
 共催等：やわらかな土から（共催）、Art Seeds、アトリエ創、社会福祉法人共生福祉会仙台ワークキャンパス、Gallery TURNAROUND、社会福祉法人仙台市手をつなぐ育成会こぶし、NPO 法人多夢多夢舎中山工房（協力）
 企画運営：一般社団法人 NOOK、NPO 法人エイブル・アート・ジャパン

障害のある5人の作家たちの作品と、それらがつくられた背景を描いた ZINE（手作りの本）を展示しました。

出品作家：大竹徹祐、きょうこ、工藤生、塗敦子、松浦繁



《会期中のイベント》

- ・「作家さん大集合！」
 (2018年3月25日/参加者数：30名)

《コミュニケーション事業》

2. 企画事業 > 2-3. アート事業「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」
> 《コミュニケーション事業》

TALK（トーク）

アートノード・プロジェクトに関わるアーティストや専門家によるトークイベント。仙台で現代アートに関わる活動をしている前野久美子氏 (book cafe 火星の庭 / Book! Book! Sendai)、関本欣哉氏 (ギャラリー・ターンアラウンド)、桃生和成氏 (一般社団法人 Granny Rideto)、小岩勉氏 (SARP 仙台アーティストランプレイス / 仙台写真月間)、千田優太氏 (一般社団法人アーツグラウンド東北)、FabLab SENDAI-FLAT (一般社団法人 FLAT)、Reborn-Art-Festival 実行委員会をパートナーに企画しました。

《実施内容》

・ホーリー・マウンテンズ・ツアー

会期：2017年4月15日
会場：7f スタジオ a
入場・参加者数：26名
入場料等：無料

2016年にモエレ沼公園（札幌市）で開催された展覧会「ホーリー・マウンテンズ 内なる聖山へ続く三本の足跡」の企画者である豊嶋秀樹氏と出展者の坂本大三郎氏が映像やスライドを交えながら展覧会の趣旨について語りました。



・Reborn-Art Dialogue vol.3

会期：2017年7月12日
会場：1f オープンスクエア
入場・参加者数：59名
入場料等：無料
企画運営：Reborn-Art Festival 実行委員会

宮城県石巻・牡鹿半島を中心に開催される総合芸術祭「Reborn-Art Festival」開催に先立ち、出品アーティストの岩井優氏、キュンチョメをはじめ、和多利浩一氏、澤口俊輔氏、成瀬正憲氏が芸術祭の紹介を行いました。



・Reborn-Art Dialogue vol.4

会期：2017年8月12日
会場：1f オープンスクエア
入場・参加者数：70名
入場料等：無料
企画運営：Reborn-Art Festival 実行委員会

総合芸術祭「Reborn-Art Festival」について、アーティストの増田セバスチャン氏、弁護士の塩野入弥生氏、芸術祭制作委員の和多利浩一氏が紹介しました。



2. 企画事業 > 2-3. アート事業「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」
> 《コミュニケーション事業》

・金川晋吾 × 西澤諭志 ふたつの「father」

会期：2017年8月26日
会場：仙台アーティストランプレイス・スペース A
入場・参加者数：31名
入場料等：500円
企画運営：SARP 仙台アーティストランプレイス

失踪癖のある父を大型カメラで撮影した写真家・金川晋吾氏と、その撮影過程を映像記録した映像作家・西澤諭志氏による二人展にあわせて、トークを実施しました。



・台湾インディペンデントシーン、進化するリトルプレス

会期：2017年8月27日
会場：book cafe 火星の庭
入場・参加者数：38名
入場料等：1,500円（ドリンク別）
企画運営：book cafe 火星の庭

インディーパブリッシャー“nos: books”の活動をはじめ、台北のクリエイターたちを取り巻く創作環境、台湾の書店事情、日本との関わりなどについて話しました。

ゲスト：永岡裕介、陳瑩羽、中山亜弓、聞き手：大林えり子



・Chim ↑ Pom 「アフタースペクタクル」

会期：2017年8月30日
会場：仙台藝術舎 / creek アトリエ
入場・参加者数：29名
入場料等：1,000円
企画運営：ギャラリー・ターンアラウンド

石巻市で開催された「Reborn-Art Festival」に参加したChim ↑ Pomの卯城竜太氏、稲岡求氏が、近年の活動について映像や写真を交えて話しました。

聞き手：和多利浩一、進行：関本欣哉



・表現規制とユーモア

会期：2017年9月8日
会場：仙台藝術舎 / creek アトリエ
入場・参加者数：36名
入場料等：1,000円
企画運営：ギャラリー・ターンアラウンド

社会問題や著作権問題を題材に、批判的な作品の発表等を続けている美術家の岡本光博氏とタノタイガ氏が、アーティストの視点でアートと表現について話しました。



2. 企画事業 > 2-3. アート事業「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」
> 《コミュニケーション事業》

・あそぶ、こども、あーと ～創造力を引き出す教育～

会期：2017年9月9日
会場：認定向山こども園
入場・参加者数：28名
入場料等：大人500円、高校生まで200円（0～3歳の子ども同伴は大人も無料）、1ドリンクチケット付き
企画運営：千田優太（一般社団法人アートグラウンド東北）

八戸市の現代芸術教室「アーティスト」の佐貫巧氏・沼尾大伸氏、仙台市で創造性を引き出す遊びの場づくりを実践する「認定向山こども園」の木村創氏をゲストに、アート／遊び／教育について考えました。



・作品がうまれるとき

会期：2017年10月28日
会場：boxes Inc.
入場・参加者数：14名
入場料等：1,000円（簡単な食べ物、飲み物付き）
企画運営：千田優太（一般社団法人アートグラウンド東北）

舞台芸術に関わる山縣太一氏、神村恵氏、中村大地氏、磯島未来氏が、作品を作り始めるきっかけやその動機について話しました。
聞き手：関本欣哉



・村越としや × 村中修 自主ギャラリーと写真

会期：2017年11月3日
会場：FIKA cafe・art
入場・参加者数：31名
入場料等：無料
企画運営：仙台写真月間 2017

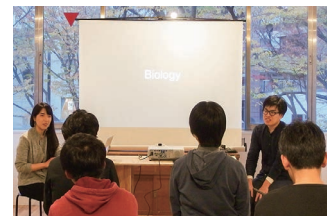
写真家でTAPギャラリー設立発起人の村越としや氏と、同じく写真家で大阪写真月間代表の村中修氏が、写真家としての成り立ちと、発表の場「自主ギャラリー」を継続していくことについて話しました。
聞き手：小岩勉



・バイオをハックする？

会期：2017年11月26日
会場：ART SPACE YOUTO
入場・参加者数：15名
入場料等：無料
企画運営：FabLab SENDAI-FLAT

「バイオ」をベースとしたハック・アートプロジェクトに取り組む西原由実氏が、自身の取り組みや世界の様々な「バイオ」プロジェクトの事例について話しました。
聞き手：大網拓真



2. 企画事業 > 2-3. アート事業「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」
> 《コミュニケーション事業》

・市原研太郎 行動するアートとは何か？—今年開催された重要な国際展（ヴェネツィア・ビエンナーレ、ドクメンタ、イスタンブール・ビエンナーレ）から浮かび上がる現代アートの未来

会期：2017年12月9日
会場：仙台藝術舎 / creek アトリエ
入場・参加者数：20名
入場料等：1,000円
企画運営：ギャラリー・ターンアラウンド

数多くの国際美術展を訪れている批評家の市原研太郎氏が、今年開催された大規模国際展について、また今後のアートについて話しました。



・鮫ヶ浦水曜日郵便局とその先 縄文からつづく宮戸地区の物語

会期：2018年2月7日
会場：SENDAI KOFFEE CO.
入場・参加者数：34名
入場料等：無料（ワンドリンク制）
企画運営：一般社団法人 Granny Rideto

2017年12月に開局した鮫ヶ浦水曜日郵便局の舞台となる宮城県東松島市宮戸地区について、鮫ヶ浦水曜日郵便局長の遠山昇司氏とともに、「こども東北学」の山内明美氏と奥松島縄文村歴史資料館館長の菅原弘樹氏が、民俗学的な視点でお話しました。



・翻訳家・柴田元幸の朗読&トーク『言葉の中へ』

会期：2018年3月23日
会場：book cafe 火星の庭
入場・参加者数：39名
入場料等：2,000円（ドリンク別）
企画運営：Book! Book! Sendai

現代アメリカ文学を数多く翻訳している翻訳家の柴田元幸氏による、文芸誌『MONKEY』を主なテキストとした朗読とトークを開催しました。



2. 企画事業 > 2-3. アート事業「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」
> 《コミュニケーション事業》

青少年の生きる技術としてのゲージツ学校

会期：2017年7月22日（ガイダンス）、
8月11日、18日、26日、9月3日、9日、
17日（講義・制作）、9月24日（成果発表）
会場：7f スタジオ a、東北リサーチとアートセンター（TRAC）
入場・参加者数：21名
入場料等：無料
共催等：一般財団法人地域創造（助成）

高校生などの若年層を対象とし、「聴く技術」によって社会との関わりを考えていくゲージツの学校。鷺田清一館長、美術家のタノタイガ氏、ラッパの HUNGER 氏が講師を務め、受講生は美術と詩の2つの専攻に分かれて課題に取り組みました。



アートノード・ミーティング

会期：2017年8月11日（第3回）、2018年2月18日（第4回）
会場：メディアテーク 1f オープンスクエア、7f スタジオ a
入場・参加者数：440名（370名、70名）
入場料等：無料
共催等：—

アートノード・プロジェクト全体にかかる公開ミーティングを行いました。第3回は「川俣正の「みんなの橋」プロジェクト」と題し、川俣正氏と当館アーティスティック・ディレクターの甲斐賢治が現在進行形のプロジェクトのプレゼンテーションを行いました。第4回は「仙台でアートの現場をつくる」と題し、今年度の TALK の企画運営者と甲斐賢治が同企画を振り返りました。



JOURNAL（ジャーナル）

アートノード・プロジェクトについて広く伝えるとともに、地域の資源や課題と現代アートの関係を可視化・記録していく印刷物を発行しました。第2号（2017年7月）、第3号（2018年2月）。

編集：（株）コミュニナ、デザイン：ホームシックデザイン



2-4. その他事業（自主財源事業ほか）

指定管理業務に加え、各種機関との共催や、仙台市市民文化事業団自主財源による事業。

2. 企画事業 > 2-4. その他事業

シネバトル わたしのイチ押し映画（シネ）はコレよ！

会期：2017年6月21日、8月30日、
10月25日、12月20日（全4回）
会場：2f 映像音響ライブラリー
入場・参加者数：101名（20名、19名、
28名、34名）
入場料等：無料
共催等：—

2013年度から続き、第16-19回
を実施しました。毎回、登壇者それ
ぞれが3分間で紹介する映画から、
参加者の投票により一番見たい映画
を決めたほか、12月20日には今年
度の金賞・銀賞受賞者が再度集まる
グランドチャンピオン大会も行い、
「グランドハウス」（監督：クエン
ティン・タランティーノ、ロバート・
ロドリゲス／2007年）を推した武
田舞華氏が選ばれました。



シネバトル わたしのイチオシ映画（シネ）はコレよ！ チャンピオン上映会

会期：2018年2月17日
会場：7f スタジオシアター
入場・参加者数：45名
入場料等：無料
共催等：—

3分の制限時間で映画を紹介しあ
い、参加者が一番見たくった作
品を投票で決める「シネバトル」。
2017年度のグランドチャンピオン
が推薦する映画を上映しました。

《上映作品》

・「グランドハウス（USA版）」
（監督：クエンティン・タランティー
ノ、ロバート・ロドリゲス／2007年）



シネバトル トークサロン

会期：2017年7月19日、9月27日、
11月29日、2018年1月31日、2月
17日、3月28日（全6回）
会場：2f 映像音響ライブラリー
入場・参加者数：68名（12名、10名、
11名、6名、18名、11名）
入場料等：無料
共催等：—

映画や映像を自由に語り合える場と
して開催しました。各回のテーマは、
「2017年上半期、印象に残ったこ
の1本」、「夏を惜しむ」、「つい
ついで観てしまう！おすすめのシ
リーズ映画、おしえてください」、「
私の2017年ベストワン！」、「も
っと知りたいアカデミー賞！」。



こどもスクエア

会期：2017年8月29日-9月1日、2018年3月19日-21日
 会場：1f オープンスクエア
 入場・参加者数：1,118名(653名、465名)
 入場料等：無料
 共催等：—

段ボールのトンネルや島に見立てたカーペットで空間を構成し、小さな子どもたちが安心して遊ぶことのできる場をつくりました。



活版印刷工房

会期：2017年7月23日、8月6日（とぶらす・ウィーク期間中）、9月24日、10月22日、11月19日、12月17日、2018年1月28日、2月25日、3月25日
 会場：地下1階準備室
 入場・参加者数：232名
 入場料等：無料
 共催等：活版印刷研究会（共催）

活版印刷研究会と協働し、当館で所蔵する活版印刷の活字や道具、手フット印刷機を使ったワークショップや、「とぶらす・ウィーク」での展示等を行いました。



TALK（トーク）

（再掲／仙台市市民文化事業団 30周年記念事業）

青少年のための生きる技術としてのゲージツ学校

（再掲／仙台市市民文化事業団 30周年記念事業）

2. 企画事業 > 2-4. その他事業

SMMA 仙台・宮城ミュージアムアライアンス

（ミュージアム活性化事業／指定管理事業）

仙台を中心とした博物館施設の共同事業体（2017年度16施設）の事務局を担い、ウェブサイトの運営等を行ったほか、当館1fオープンスクエアに参加館が一堂に会し、専門家によるトークや体験講座を行う「ミュージアム・ユニバース―すてき・ふしぎ・おもしろい―」（2017年12月15日-17日／入場者数：2,389名）を開催しました。



草アーカイブ会議 2「コミュニティ・アーカイブってなに？」

会期：2017年12月23日-24日
 会場：1f オープンスクエア
 入場・参加者数：565名(322名、243名)
 入場料等：無料
 共催等：仙台市市民文化事業団30周年記念事業

「痕跡とアクチュアリティ～鉱山、通信所、終戦、ホーム～」(23日)、「土着の魂・旅人の目～カセットテープとインターネット～」(24日)と題し、草の根的に展開されているアーカイブの取り組みを紹介しながら、アーカイブ活動の創造性について話し合いました。
 スピーカー：小岩勉、坂田太郎、瀬尾夏美、松本篤（23日）、小野和子、川瀬慈、ヴィンセント・ムーン（24日）、モデレーター：桂英史（23日）、佐藤知久（24日）



3. 受託事業

仙台市より受託した事業。

3がつ11にちをわすれないためにセンター（震災復興アーカイブ事業）

2011年度から継続して、市民、専門家らとの協働により、東日本大震災に関する写真・映像・音声を、記録・発信。

3. 受託事業 > 3がつ11にちをわすれないためにセンター（震災復興アーカイブ事業）

ラウンジ交流展示 「タイル・ルート・トタン」ー荒浜・藤塚と浪江の記録ー

会期：2017年7月8日-10月1日
 会場：7f ラウンジ
 入場・参加者数：—
 入場料等：無料
 共催等：高橋親夫（共催）

仙台市東部や貞山運河沿いを中心に、30年にわたって町並みや風景を写真で記録し続けている「3がつ11にちをわすれないためにセンター」参加者、高橋親夫氏が撮影した宮城県仙台市荒浜・藤塚や福島県浪江町の写真を紹介しました。



草アーカイブ会議 2 「コミュニティ・アーカイブってなに？」

（再掲／仙台市市民文化事業団 30周年記念事業）

星空と路 —上映室— 暮らしの行き先

会期：2018年2月24日-25日
 会場：7f スタジオシアター
 入場・参加者数：478名
 入場料等：無料
 共催等：—

「3がつ11にちをわすれないためにセンター」参加者が記録した東日本大震災にかかわる映像の上映や、ゲストを交えたトークなどを行いました。



3. 受託事業＞3がつ11にちをわすれないためにセンター（震災復興アーカイブ事業）

星空と路 —資料室—

会期：2018年2月24日-4月22日
 会場：7f ラウンジ、1f オープンスクエア（3月7日-11日のみ）
 入場・参加者数：8,685名（2018年度分含む）
 入場料等：無料
 共催等：—

東日本大震災から7年となる今回は、変わりゆく地域の姿を冷静に見つめながらも受け継いでいきたい大切なものを守る想いや、地域に新たな魅力や価値を創造する取り組みなどを紹介しました。また、あわせて「猿とモルターレ」アーカイブ・プロジェクトや歓藍社によるワークショップも開催しました。



わすれん TV311 リアルふっこうボイス

会期：2018年3月23日
 会場：7f スタジオ a
 入場・参加者数：158名（視聴数）
 入場料等：無料
 共催等：—

東日本大震災の被害にあわれた住民や支援者など、復興まちづくりに携わる様々な方の想いを生の声で記録・発信すると同時に、復興まちづくりに携わるメンバーが、それらの声や被災地の復興の現状をホンネで話し合う番組。第40回となった今回は「再興から7年のこえ」をテーマに話し合いました。



4. 情報サービス事業

各種ライブラリーでの資料提供や情報メディア活用の支援。

4. 情報サービス事業 > 4-1. 映像音響ライブラリー、4-2. 教材ライブラリー、
4-3. 視聴覚障害者情報ライブラリー（バリアフリー・ライブラリー）、4-4. 地域映像ライブラリー

4-1. 映像音響ライブラリー

資料点数 13,163 点
貸出点数 63,678 点
新規登録者数 586 名

4-2. 教材ライブラリー

資料点数 4,747 点
資料貸出点数 333 点
機材貸出点数 455 点

4-3. 視聴覚障害者情報ライブラリー（バリアフリー・ライブラリー）

資料点数 5,941 点
貸出件数 2,735 件
対面朗読件数 328 件
音訳・点訳件数 15 件
音声読み上げパソコン利用件数 0 件
音訳制作件数 18 タイトル
(DAISY 資料 6 タイトル、メディアテーク資料（情報誌等）12 タイトル)
点訳制作件数 48 タイトル
(視覚障害者情報ネットワーク「サピエ」登録 33 タイトル、メディアテーク資料（情報誌等）
15 タイトル)

4-4. 地域映像ライブラリー

資料点数 16 点

4-5. デジタルアーカイブ事業

《アーカイブ作成活動事業》（smt コレクション）

主催事業の記録映像、スタジオを拠点とした市民グループ等との協働による映像、そして、「3がつ11にちをわすれないためにセンター」の活動を通じて制作された東日本大震災にまつわる映像をDVDパッケージにし（今年度88タイトル／累計346タイトル）、映像音響ライブラリーおよび教材ライブラリーで公開したほか、ライブラリー利用登録者にとどまらず、内外の報道・研究、上映会等のための貸出を行いました。

また、当館が所蔵する地域映像資料の活用のひとつとして、上映会「時代劇になった伊達騒動」を実施し、「伊達騒動風雲六十二万石」（監督：佐伯清／1959年）、「青葉城の鬼」（監督：三隅研次／1962年）の上映、および、仙台市博物館学芸員・菅原美咲氏によるトークを行いました（2018年3月24日／スタジオシアター／入場者数：442名）。



《そのほかのアーカイブ事業》（過去年度に構築したアーカイブの運用）

仙台市内の公共施設による市民活動のチラシを流通する「仙台に情報の背骨を通すプロジェクト」に寄せられたチラシの電子化（<http://smt.jp/honepuro/>）や、ミュージアムと地域人材が連携したアーカイブ「レコーダ」（<http://recorda.jp/>）の運用を行いました。

4-6. 活動支援事業

学校連携事業

仙台市小学校教育研究会図画工作部会と連携し、映像制作プログラム「コマ撮りアニメーションを作ろう！」（実践校数11校、児童数869名）、「30秒 MOVIE」（実践校数1校、児童62名）の希望校への機材貸出と授業研究、図画工作部会教員実技研修会への講師派遣、また仙台市立木町通小学校への講師派遣を行いました。



音声パソコン入門講座

会期：2017年10月21日、22日、28日、29日
 会場：7f スタジオ b
 入場・参加者数：15名
 入場料等：無料
 共催等：仙台市視聴覚障害者福祉協会（共催）

目の不自由な方を対象として、音声パソコンの基本操作、文字入力の方法、ホームページの閲覧、電子メールの送受信などを学ぶ講習を行いました。

音声パソコンステップアップ講座

会期：2017年7月1日-2日、2018年2月17日-18日
 会場：2f 会議室、7f 会議室 b
 入場・参加者数：12名（8名、4名）
 入場料等：無料
 共催等：仙台市視聴覚障害者福祉協会（共催）

目の不自由な方を対象として、音声パソコンの講習を行いました。

メディアスタディーズ

プロジェクトに取り組む個人・団体の方々との協働により、7階スタジオを拠点とし、地域の歴史や文化をデジタル・アーカイブとして残していく活動や、そのための企画・編集作業など、メディアを使った創作と実践に取り組みました。

《プロジェクトと協働者》

- ・ てつがくカフェ（てつがくカフェ@せんだい）
- ・ 民話 声の図書室（みやぎ民話の会「民話 声の図書室」プロジェクトチーム）
- ・ どこコレ？—おしえてください昭和のセンダイ（NPO 法人 20 世紀アーカイブ仙台）
- ・ くるい音楽室（宮城アナログ文化協会）
- ・ おほはしア라운드（地域探検隊 -TTT-）
- ・ みやぎシネマクラドル（みやぎシネマクラドル）
- ・ 仙台前衛藝術の足跡を辿る（仙台ダダ外部調査委員会）
- ・ 知る 続く 在来作物プロジェクト（みやぎ在来作物研究会）
- ・ プロジェクション・せんだい（プロジェクション・せんだい）
- ・ 細倉を記録した寺崎英子の写真アーカイブ（寺崎英子写真集刊行委員会）
- ・ まつりの準備—相馬野馬追（岩崎孝正）
- ・ カミングアウトノクローゼット（レインボーアーカイブ東北）
- ・ 失われた村の風景を記憶しなおす（『失われた村の風景を記憶しなおす』プロジェクト）
- ・ 遠い火 | 山の終戦（小森はるか+瀬尾夏美）
- ・ みんな映像工房（酒井耕）
- ・ Sendai.log（Sendai.log）
- ・ いきもの記録係（いきもの記録係）
- ・ まち・ひとスケープ（まち・ひとスケープ）
- ・ 活版印刷工房（活版印刷研究会）

5. 配布・刊行物等

今年度、当館で制作し、配布・刊行した冊子や映像音響資料、通信等。

5. 配布・刊行物等 > 5-1. 書籍や報告書等の印刷物、5-2. DVDメディア等の映像音響資料、5-3. 紙やインターネットを通じた定期発行等、5-4. その他常備している印刷物

5-1. 書籍や報告書等の印刷物

- 『畠山直哉 まっぷたつの風景』（書籍）
- 『コンニチハ技術トシテノ美術 ハンドブック』（冊子）
- 『コンニチハ技術トシテノ美術』（書籍）
- 『コミュニティ・アーカイブをつくろう!』（書籍）



5-2. DVDメディア等の映像音響資料

smt コレクション DVD（88タイトル）

《内訳》

- ・メディアテーク事業記録（67タイトル）
- ・協働による制作物（8タイトル）
- ・3がつ11にちをわすれないためにセンター資料（13タイトル）

音訳資料（18タイトル）（再掲）

点訳資料（43タイトル）（再掲）

5-3. 紙やインターネットを通じた定期発行等

『館内の催し』（印刷物／毎月）

『けやき通り通信』（印刷物／隔月）

『教材ライブラリーだより』（印刷物／毎月／PDF版をウェブサイトで公開）

『せんだいメディアテーク・メールニュース』（メール配信／毎月／登録者 2,339名）

ウェブサイト（アクセス総数 827,300件）

5-4. その他常備している印刷物

総合案内（日本語版／英語版／フランス語版／中国語版／韓国語版）

総合案内（目や耳の不自由なかたへ）

総合案内（車椅子アクセス）

貸出施設利用案内